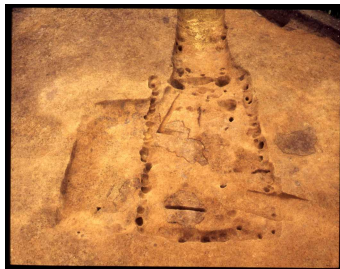


その35 宇山

(平成12年5月1日号—第206号)

京阪電車牧野駅から府道枚方高槻線を東へ進むと、約5分で左手に牧野公民館^{*1}が見えてきます。そこから北側が今回紹介する宇山[うやま]です。穂谷川を望む台地上に位置し、北は養父、西は下島、東は招提、南が阪と接しています。



61 宇山1号墳横穴式木室と木棺直葬墓



62 宇山1号墳出土銀象嵌直刀鏢

宇山には、マンション建設に先立って発掘調査された2基の古墳がありました。両者とも円墳[えんぷん]で、土師器[はじき]・須恵器[すえき]のほか鉄鏃[てつぞく]や象嵌[ぞうがん]が施された直刀[ちよくとう]などが副葬されており、6世紀中頃から後半の築造と考えられています。

宇山の地名が最初に出てくる史料は、現在のところ、天文24年(1555)7月の『牧一宮神田帳』[まきいちのみやじんてんちょう](片埜神社文書)で、舟橋郷に「上山」の名が見えます。また、市内では宇山と招提の二村にしか残っていない文禄3年(1594)の検地帳でも、「河州牧之郷上山村」と記載されています。古くは上山と呼ばれていたのでしょうか。ところが、元和2年(1616)の免状には「宇山村」となっています。江戸時代はじめに「上山」から「宇山」に改められたと考えられます。

さて、宇山の名にまつわり、平安時代に活躍した坂上田村麻呂[さかのうえのたむらむろ]と結びつける説があります。蝦夷[えぞ]を平定した田村麻呂は、降伏した首長阿弭流為[アテルイ]と母礼[モレ]の二人を連れて京都へ帰って来ました。田村麻呂の助命嘆願にもかかわらず、二人は「河内植山[うえやま]」で首をはねられてしまいました。「植山」という地名は、河内国には残っていないため、その地が改名前の「上山」ではないかと考えられたわけです。ただし、写本^{*2}によっては、「杜山[もりやま]」、「楯山[すぎやま]」とも記されているので、その地が宇山に当たるのかどうかはいまだ特定されず、蝦夷の英雄が没した地は、歴史の謎に包まれています。

このような古代のロマンあふれるまち、宇山を一度訪れてはいかがでしょうか。

^{*1} 平成18年10月から牧野生涯学習市民センター。

^{*2} 『日本紀略』。